

こんばんは！夜分遅くにすみません！語り合うことについての私の中の簡単な意見です！

私があのかのことで強烈に覚えているのは、Mのことです。私は中学校に入って、今まで仲が良かった子とクラスが離れて、今だから言えるけど、消去法な感じでちょっとだけ話したことがあったMと話すようになりました。初めは話も盛り上がらないし、楽しくないなって思うこともありました。それでも、いつのまにかMと打ち解けてました。それでKやHとも仲良くなって、思い出補正もあるかもしれませんが、本当に中学時代が一番楽しかったと思います！

それで、道徳の授業があって初めてMの心のうちを知りました。初めての感覚でした。自分は何も知らなくて、どうしていいかわかりませんでした。でも、そのときはMの側に居たい、Mとずっと笑いながら話したいと思いました。だから、頑張ってMと同じような立場になりたくて発言してたのを覚えています。私にできることは何一つもなかったように思うし、力不足なんですけど、Mが一人で発言しているのを私も隣で対等に発言して、Mを一人にはしないようにしようって思ってたのかもしれない。

だから、本当に正直に言うと、私は最後のテーマ(家族の絆・故郷への思い)はピンときていませんでした。故郷への思いや絆というよりは全部、Mの為という感じだったので…すみません。

話が逸れたのですが、私は自分の気持ちを伝えるって行為を一番後押ししてくれるのは、自分が信頼している人をどうにかしてあげたい為なのかなって思いました。

私は今は看護師を目指して勉強してます。1年のときの実習は若い患者さんでした。話すことも何もなくて、向こうも学生がちょっと面倒くさそうで、個人的にすごく苦手でした。そんな雰囲気だからほとんど会話もなく、担当看護師さんからすごく怒られました。患者さんとコミュニケーションをとって、患者さんのこと考えてアセスメントしてる？患者さんのニーズに応えられてる？毎日、厳しく注意されました。今思うと、自分の気持ちが全くその患者さんに向いてなかったなと思います…。

2年の実習は、1年の時の実習を反省して積極的に患者さんに話しかけにいきました。最初は1年のときの意地みたいなものでした。でも、だんだん話すうちに患者さんの、病気になってやるせない気持ちや、毎日の治療の時間の長さのしんどさ等を話してくれました。私はこ

の人の為にどうにかしたいって思いました。それから、1年の時じゃ考えられないくらい担当看護師さんに患者さんの変化や気にしていることを積極的に伝え、自分がしたいことを伝えました。

私は自分が発言することで世の中が変わるのも思っていないし、そんな周りに影響を与えたいから発言したいとも思いません。1回くらいはオバマみたいなスピーチしてみたいですけどね…。本当に偽善だと言われたらそれまでなんですけど、自分にくれた暖かい気持ちを返したいって思ったら、どうにかしようとして、自分から発言すると思います。その人が少しでも楽になるように、幸せになって欲しいから、いつもみたいに笑顔でいて欲しいから何かを伝えたいから、発言すると思います。

でも、中学校の時にそんな風に思った気持ちは嘘じゃないし、誰かの為に自分の気持ちを伝えることは、自分自身も救われていたように思います。自分の好きな人が苦しそうなのは私も辛かったので、相手が少しでも楽になれば私も楽になったような気がします。

吉成先生の求めてた答えと違ったらすみません！あと、まとまりのない文章で申し訳ないです！長々とすみません。では、失礼します。

《吉成からの返信》

人の為と書いて偽。人の為にというのは偽善だと言う人がいます。自分の為にやらないと偽善だと言う人がいます。

けど、そんなだから、世の中がおかしくなったと言う人もいます。人の為の何が悪い？人の為、人の為と思って、とことん人の為に尽くして、あるときふと、「あ、これまでのことは自分の為だったんだ」と思えるものでないか。それを初めから自分の為にということの方が、おかしいのではないかとと言う人もいます。

誰かの為に、という思いは決して間違いでもないし悪いことではないと思います。それが今の自分の大切なエネルギーになっているのなら、それは自分のものになっているということです。

あなたは、たぶんずっとそういう生き方をしてきたんです。それが、今の自分の生き方につながっているんです。そう思えた中学時代の語り合いは、意味があったのではないのでしょうか。私にはそう思えます。

患者さんに向けた思いのことは、Mに向けた思いが土台になってるのではないのでしょうか。Mとのことがなくても、あなたは同じことをしたかもしれませんが、Mのことがあったからこそ、なお患者さんとのかわりを大切に思い、かわることを思い出したのかもしれない。

確かにあなたから、故郷という言葉はできませんが、故郷の景色には、あなたを育んだ応神という町があり、そこにはかけがえのない友がいて、大切な思い出があるのではないのでしょうか？それが、故郷を大切に思うということだと思うのです。

長い文はいくらでも構いません。もしかしたら、息の長い文が書けるのも、あのときの思いや取り組みがあったからかもしれませんよ。

《本人からの返信》

「あなたは、たぶんずっとそういう生き方をしてきたんです」って言ってもらえて、自分のしてきたことが間違いじゃなかったんだと思いました。

あと、先生に伝えようと思って書き忘れてたこと、ちょっとだけ…。

私の中で先生が言っていた、「愛という字は心を受け止める」って言葉は私の一生の教訓です。私の心のど真ん中にいます。看護の勉強を初めて尚ですが、私自身がこんな風に生きていこうって思ったきっかけでした。誰かの為に尽くして、それでも何も残らなくても私は人の為に尽くそう、人の色んな感情をちゃんと受け止めようって思えました。私はこれからも一生そうして生きていきます。看護師として患者さんが少しでも幸せだった、まあまあいい人生だったな、と思えるような人生の終末を迎えられるようなお手伝いをしていきます。そして、それができるのであれば、徳島でいたいなとも思っています。

そして、本当に最後になるんですけど、だから、この言葉は、私の教訓は先生の立場である吉成先生だから色々な子どもに伝えることができると思います。少しでも伝えてあげて欲しいです。多分、心のうちを打ち明けて聞いてもらえることがどれだけ救いになるか、その言葉に何を返すかで一生懸命悩むこと、みんなに宗教みたいに言い聞かせたいんじゃないんですけど、その言葉を人生のうちに聞くか聞かないかで大きく違うと思いました。その気持ちを知れば、他人にちょっとは優しくなれるんじゃないかと思いました。

では、失礼します！言いたいことってすごい溢れてきますね、それだけ真剣に考えてた証拠かな、と思います。

応神中学校合同人権学習 5年目
人権を語り合う中学生交流集会

20代女性 MM メール

「語り合いについて」

・言葉の大切さを学びました

「わかるよ～～」って言っても、その人のことが本当に分かる訳ではないし、軽い気持ちでその言葉はかけられないなと思いました。今でもその気持ちは残っていて、患者さんと話すときに、「大変ですね～～」なんて簡単には言えないし、それこそヒトゴトのような気がして、言葉を発するときはなるべく考えて出すようになりました。

・なんか肩の力がぬけたように思いました

格好悪く泣いてしまって、周りが見えなくなっていた中学生のときの自分があったから、高校入って一歩引いた立場から回りの人々を見るようになって、「あのときの自分ってこんな風に見られてたんだろうな～～」みたいに思いました。それは今も変わってなくて、今は泣きわめくことはないけど、違う視点から見て動くこともできています。でも、「全力でみんなとぶつかることはもうないんやなー」と思いました。少しさびしい気分です。けど、中学時代にいっぱい力が抜けたから、高校でも大学でも、「〇〇さんの娘」じゃなくて、「〇〇〇〇(名前)」として、あの時間があったから何にも縛られずに頑張れたんだと思います。